

# 開校10周年に向けて

青垣小学校 校長だより

令和7年6月号

発行責任者 植木政行

青垣地域全体での合意形成 ～一つの地区の課題を全体の問題として～

平成22年度から平成28年度までの7年間にわたり、丹波市教育長を務められた小田繁雄様は、平成22年に遠阪小学校でひとつの複式学級ができたことから、「丹波市立学校適正規模・適正配置方針」に基づき、「青垣地域のこれからの教育を考える会」の立ち上げを要請されました。このとき、「絶対に教育委員会が主導しない」と決め、青垣地域の現状を説明したうえで、「今のままいくのか、統合するのか」を地域住民主体で継続的に検討することを大切にされました。

当時について、「複式学級という一つの地区の課題を、単独で充分存続できる小学校のある地区の人々も青垣地域全体の問題として捉え、4校統合という合意形成を果たせたことが青垣地域の素晴らしいところです。」とふり返られる小田繁雄様のお話を紹介します。



校舎竣工式でテープカットをする小田繁雄様（右から2人目）



校舎竣工式でのあいさつ

地域の声に最大限応える ～統合準備委員会の皆さんと協議を重ね～

丹波市で初めての統合に対し地域から様々な要望がありました。限られた市財政を踏まえながら地域の声に最大限応えるため、統合準備委員会の皆さんと1年以上に渡って協議を重ねました。おかげで佐治小学校の敷地と既存校舎を活用しながら、最新の設備を備えた新校舎を建設することができました。

青垣小学校の校章や校歌制定も準備委員会の皆さんにご尽力いただきました。

施設、教育内容両面の充実を図る ～これからの時代にふさわしいものを～

青垣は市内他地域よりも雪がよく降ります。また地球温暖化による気温上昇を踏まえ空調設備や二重窓など快適な教室環境を整えました。学校教育に直接携わる先生方からも意見を求めました。玄関に巨大なひさしを追加したのも学校の要望を取り入れたもので、今も下校時や校外学習の集合時に雨雪や日差しを防ぐなど有効に活用されています。

開校から10年経った今も各地から学校見学があると聞いています。今後も各地で小中学校統合が議論される状況が続くと思いますが、他地域から「こんな学校ができるなら統合を検討しよう」と思ってもらえる学校統合ではなかったかと思っています。主体的に取り組んでいただいた委員や地域の皆さんに感謝しています。



玄関ひさしで整列する児童

## 学校運営に地域が参画するコミュニティ・スクールの導入

芦田・佐治・神楽・遠阪の4小学校は、地域学習がとてさかな「地域とともにある学校」でした。地域に学び、地域の人と交流を深めるふさと教育を大切に、いろんな形で学校に関わってくださる方が多くおられました。統合後、3地区では施設としての学校はなくなりますが、青垣小学校を自分たちの学校として学校運営に参画していただくため、コミュニティ・スクールを導入しました。



コミュニティ・スクール学習支援部打合せ (H29)

### 1 こども園 1 小 1 中 1 高校という地域の特徴を生かし、縦のつながりを充実

教育長になったとき、氷上西高校は全校生 80 名程度の全国で一番小さな高校で、存続の危機に直面していました。存続するための学習会を何度も行い、先生方と話し合いを重ねました。行政では氷上西高校への通学バス代補助などに取り組み、学校では少人数授業を取り入れるなど、魅力ある学校づくりに取り組まれました。平成 24 年度からは青垣中学校・氷上中学校との連携型中高一貫教育校として改革を進め、青垣中学校と氷上西高校の先生が相互に数学科や英語科の授業に加わって指導するなど連携を図っています。

青垣小学校は青垣中学校との小中一貫教育校としてスタートし、氷上西高校や認定こども園あおがきとも連携をしています。横のつながりである 1 学年の人数は減っても、縦のつながりを充実させることで豊かな人間関係を作っていけるようにしました。



中学校英語科における  
高校教員との複数指導

### 統合によって街と変わらない学校ができる

過疎が進み複式学級の学校の地区で「子育て中の息子がここには帰りたくないと言っている」という祖父母の声を聞いたことがあります。青垣地域の総合準備を進める中で、「統合によって街と変わらない学校ができる」と言い続けました。

通学においても、児童が 1 人で長い距離を徒歩で下校することがないよう、徒歩通学を 2 km 以内に、スクールバスを運行することによって安心して通学できるようにしました。アフタースクールは学校の敷地内に設置し、運動場や体育館を使用できるなど子どもにとって良い環境で、保護者も安心して預けることができると考えています。



下校後アフタースクールに向かう子どもたち

### 「安心して青垣に帰ってこい」と言える教育環境、教育活動を未来へ

統合から 10 年経ちました。祖父母が、親となった我が子に「安心して青垣に帰ってこい」と堂々と言える、そんな教育環境、教育活動が青垣小学校で提供されています。さらに 10 年後ぐらいは今のまま行ける可能性が高いと思います。しかし、その先はわかりません。その時々世代が知恵を出し合って、よりよい方向を見いだしていってほしいと願っています。